

2008. 10. 5養成講座＝2＝ アンケートから抜粋

<当事者・家族・友人>

・オレンジクラブの「羅針版」の内容を知りたくて参加しました。鈴木さんを見て勇気、希望をもらえました。今後もぜひこのような講座を続けてほしいと思います。

・今回、高次脳機能障害の姉の力になれたらと参加しましたが私自身がリフレッシュ出来楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

・記憶障害の兄の記憶がすこすこ少しでも良くなればと思い参加しました。確かに記憶障害だけでなく、心理循環の図にあるあるように複合的であることが良く解りました。今日講義いただいたもので、私たちが心掛けることで長期続ければ兄の記憶が良くなるのだ、という希望が持てました。今日の参加者の中には私同様、家族に障害が出て困っている人が(もちろん、障害を負ってしまったご本人も)いるのだとつくづく思いました。ネット等でいろいろ探していますがこのような講座を今後もお願いしたいです。

・発症(手術)より一年半経ち体の機能はリハビリにより回復し、まさに記憶、遂行、発動性の低下により数々の問題に当たっています。とても参考になりました。失語も改善してきたので今日の羅針版を参考にして、今まで支えてきてもらった家族、友達、当人と話し合える場を持っていることに感謝して生かしていこうと思います。入院から次の場へと移す時期にとっても参考になりました。

・私自身、高次脳になって4年半ですが普段の生活上、どんな事に気を付けて人と接したらよいかを知りたくて。また、通所している自立センターにも高次脳の方が多いのでどう接すればよいかよいかと。さすが橋本先生の講義は当事者側から聞いていてもすごく聞きやすかったです。実習も是非真似してみたい。

・高次脳機能障害を持つ家族がどのように支えているか? 発動性を高めるにはどうしたらよいか? 橋本先生のお話を直接伺うことが出来、本の内容がより身近になりました。本当に面白い時間でした。リンチピンの実際が解って良かったです。

・姉が発症して半年。前回参加させていただいた時から姉の状況は変わってまいりました。まだ施設に入所中ですが、出てからどのようにリハビリ(主に高次脳機能障害者)して行ったらよいか不安を抱えています。より良いリハビリを受けさせてやりたい、学びたいと思い参加しました。66歳になりますので老健等のリハにヒト括りされてしまいがちですが認知症とは少し異なるのでいろいろな情報を得たいと思いました。前回も今回も非常に素晴らしい講師のお話を伺えてありがたいと思います

・高次脳機能障害の息子がいますので、少しでも情報を入手したい、少しでも良くなる方法が見つかるのではという期待感があります。

・5月とは異なった内容での学習会でしたが有難いです。第1回目、第2回目ともに生活に生かせたら

良いと思います。今後の講習会に期待しています。ありがとうございました。

・主人が当事者で今休職中。復職に向かっているところです。障害者として本人が自分の障害を受け入れることが分かっているようで、なかなか受け入れられないところがあります。妻である私は出来ない所に目が行ってしまいそれを責めてしまいます。出きる事を褒めて喜んで行く事、それを伸ばして行く事の大切さを思いました。そして何より自分（本人）が自分で決める事が大切と思いました。

・とても面白く、全てが充実した内容だったので、一生懸命集中して聞くことが出来た。あれだけ素晴らしい内容だったら、お金を払っても本当に聞くに値します。お金を払っても学びたい人に来て貰えば良いと思いますから。1,000円かかっても安いぐらいです。

<学生>

・学校で高次脳機能障害について学んでいますが実際の患者さんにお会いすることはあまりありませんので今回お会いすることが出来て良かった。当事者が自分の障害を理解し、受容していらっしやったことに驚きました。

・S Tになる為に高次脳機能障害を学んでいる最中です。高次脳機能障害者は目に見えない障害なので様々な苦勞があると思います。実際に羅針版など拝見出来て本当に理解を深めあったりすることは大切だなと感じました。しかし先生の講義の中でO T, P T等はよく口にされていましたがS Tはほとんど出てこなかったのですみしかったです。

・S tを目指し勉強中です。高次脳機能障害が記憶や失行など部分的な障害ではなくすべてが繋がっている。しかも呼吸、嚥下等基礎的機能とも密接に関わっているというお話が印象的でした。私も鈴木さんと同じ30歳ということ共感するところも多く参加させて頂きました。現状ではきっかけがないと新しい事が始められないということ以外は問題無しとの事ですがお母さんが言っていた「地獄の3年間」という言葉が印象的でした。目には見えにくい障害を理解した上で、その個人の立場になるべく立ち、サポートすることが大事だと思いました。

・発表方法について・・・マイクの音量がやや小さめだったり前のテレビでビデオ流した時、後ろだとよく見えなかった。あとこれは少し難しいかもしれませんが座席がキュウキュウで移動しづらかった。もう少し集中できるように工夫していただけたらと思いました。

・高次脳機能障害について知らないことが多いので理解を深めたかった。何に困っているのか、どのようにリハビリが行われているかを知る事で、今後自分が高次脳機能障害の方々と接するときの手がかりになるのではないかと思った。羅針版では皆さんの脳と心が動いている様子が後ろから見ても解りまた私もとても頭を使ったことを実感した。調布ドリームの活動は皆さんと一緒に活動を楽しんでいらっしやる様子がとても印象的だった。

・講義で高次脳機能障害について勉強していますが、なかなか難しく頭に入ってきません。そこで当業者方や、ご家族、関わりのある方から実際に話を聞ければと思い参加しました。気づいたことは、自分にも周りの人にもいつ病気や、事故で障害を負ってもおかしくないことで身近な問題と感じました。

・頭部外傷を負った方のリハビリについて知りたくて参加しました。高次脳機能障害のリハビリについては、ほとんど知らなかったのが今回知る事が出来、今後の仕事（勉強）に大変役立つと思いました。またリハビリの精神（出来ることを伸ばす、総合的にアプローチする）についても学ぶことが出来、大変勉強になりました。ありがとうございました。

・高次脳機能障害を持つ当事者やご家族の方がどのようなことにお困りかと少しでも理解しボランティアでどのような事を心掛けたら良いかを学びたいと思い参加しました。橋本先生のお話はとても解り易く、楽しい時間となりました。一日いろいろな事が学べ充実していました。障害が有る、無しに関わらず言えることが多く、日常自分自身が気を付けなければいけないことに気付かされました。

<医療職>

・自分が仕事上での利用者さんとの関わりでの参考になったらと思い参加しました。日常の生活の中でも自分のために出来る身近なことが沢山あり、気付くことが出来て感謝しています。どんどん実践できるよう頑張りたいと思います。

・オレンジクラブ、ドリームの実習の様子を知りたくて参加しました。大変参考になり是非自分の地域でやっていきたいと思います。

・高次脳機能障害者へのリハビリ、接し方、就労への支援の仕方、考え方、留意点など学びたいと思い参加しました。また当事者本人や家族の声を聞き現場で活かせるように、また自分自身を改めたいと思いました。今回参加させて頂きとても貴重な有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

・現在回復期リハの病棟に勤務しており、脳卒中後の高次脳機能障害への介入もしています。日常生活動作の自立など病院で出来ることは限られており（自身の視点の少なさもありません）地域に患者さんが戻られてどんな事に困っているのかを知りたくて参加しました。

地域での生活を見据えての病院でのリハ介入の視点を少しでも増やせればと思い参加しました。失敗体験を患者さんにさせてしまうことが怖く、狭い関わりになっていたことと、失敗を怖がっていたのは自分自身だったのだな—ということに気が付きました。いろいろな経験を目の前の患者さんともっとして行きたいと思いました。ありがとうございました。

・集団支援の実践（地域、医療機関など）、包括的ケアの実践・視点、ボランティアの活動から地域へのかけ橋について知りたくここまで来た。学んだことを実践に繋げたいと思います。一緒に楽しみを作る技術(?)を学んだように思います。

<福祉職>

・高次脳障害持っている方との関わり方。現場の生の声を聞きたい。障害を持たれてから必死の努力、多くの壁を乗り越えた当事者の方、家族の方には頭が下がります。もっと社会的に認知されることを望みます。

・橋本先生の講義に興味があり参加しました。リハビリというものはその人自身と周囲の環境も含めたもので「人間学」「社会学」ともいえるな一と思いました。

・一番印象的だったのは高次脳機能障害は一つではなくすべてが繋がっているということでした。よいところをどう伸ばしていくか、今日から考えていきたいと思います。ありがとうございました。

・「ポジティブフィードバック」「この時間を、今をハッピーに過ごそう」（時間を守ることは自信があるので！）この2点は障害が有っても無くても社会に生きていく上で大切にしたいことだとおもいました。これから私の羅針版にして行きます。本当にありがとうございました。（良い姿勢を保てるように頑張りたい！！）

<その他>

・特別支援学校には多くの高次脳機能障害の子供が在籍していますが多くは先天的障害と同様の教育や支援をしていると思います。今後も事故後遺症の子供たちも増えてくるとが予想されます。先天障害と根本的に違うところ、気を付けなくてはいけないところを知りたかったことと、家族の方にこの会を紹介してあげるために、まずどんな感じか、様子を見せて戴きたく、自分が来てみました。（特別支援学校教員）

・ボランティアとして高次脳機能障害者と接しているが、相手の事を良く知りたいと常々思っています（周りの情報が少ない）知らない、分らないことが沢山あり、いろいろな人から話を聞けてとてもよかったです。専門家と違ってボランティアだから出来ること、最低限守るべきルールなどまだまだ知りたいことが沢山あります。今日特にボランティアするに当たり自分の芯になるものが必要だと実感しました。その上でのボランティアかなと思いました。ありがとうございました。また参加したいと思いました。（ボランティア）